



図208 釈迦堂 中央の木立にある

平成九年の発掘区域、一万三六〇〇平方メートルから検出された遺構には、畑の畝と考えられる溝状の遺構や、八一基もの土坑どこうなどがある。土坑には火葬に関係するものがあつた。古代の火葬では、火葬後、主要な骨は骨蔵器に入れて墳墓に埋葬し、残つた骨や灰、木炭は土坑に埋められた。調査地では墳墓は見つかっていないが、骨や灰、木炭を入れた土坑が六基確認された。また、ワラを焼いた後の灰と焼土が堆積たいせきした遺構があり、そ



図207 遺跡の位置
5万分1地形図「弥彦」

釈迦堂遺跡しやくかどう 西区板井・木場

釈迦堂遺跡は、中ノ口川左岸の平野部、板井と木場の中間に位置している。釈迦堂の周辺は、古くから土器や古銭が出る場所として知られていた。

昭和四十七（一九七二）年に北陸自動車道の建設、平成九（一九九七）年に黒埼パーキングエリアの改良工事に伴い、釈迦堂から北西へ約五〇〇メートルの場所を新潟県教育委員会が発掘調査した。その結果、水田面下に約一メートル埋没している自然堤防上に立地する、九世紀（平安時代）と十三〜十四世紀（鎌倉〜室町時代）の遺跡であることが分かつた。ここでは平安時代について紹介する。



図209 焼骨・木炭を埋めた土坑 (No.116) 木炭層除去後 長さ75センチメートル、深さ19センチメートル 新潟県教育委員会提供



図210 ワラ灰・焼土が堆積した遺構 新潟県教育委員会提供



図211 土坑 (No.116) から出土した火葬骨 新潟県教育委員会提供

との多い
「郡」と書かれた墨書土器があることも、それを示している。

こは遺体を荼毘^{だび}に付した所と考えられている。調査地では、建物の跡が見つからなかったが、遺物の出土状況などから、調査地の東側に居住区域があり、西側には湿地が広がっていたと考えられている。この集落では、村の西端を火葬場や火葬後の焼骨の処理場にしていたのである。

当時、火葬は限られた階級の人々にしか行われていなかった。釈迦堂遺跡で火葬された人々は、この辺りの有力者であろう。出土遺物の中に、古代の役人が身に付けた革帯の飾り金具や、円面硯^{えんめんけん}（須恵器製の丸い硯^{すずり}）、役所の遺跡で出土するこ